

## 備蓄米放出

江藤農水大臣は2月18日閣議後の記者会見で「お米」の価格高騰対策として「備蓄米」21万トンの放出手続きを早める方針を示した。

「備蓄米」制度は1993年に「お米」が大凶作となり、昨年のようにスーパーの棚から「お米」が消え、消費者がスーパー等のお米販売店に殺到した「平成の米騒動」を機に1995年から法律により、国による「お米」の備蓄を制度化した。現在は100万トン（10年に一度の不作にも供給できる量）を備蓄している。

過去には東日本大震災で4万トン、熊本地震で90トン放出された。今回は備蓄されている100万トンから21万トン放出する。背に腹は代えられないが、根本的な「米不足」解決

にはなっていない。一部の「お米」生産者を除けば、生産者の手取り金額は「お米」の消費者価格ほど上がっていないようだ。生産者はやっと一息つけた程度である。

「野菜・果樹」の価格高騰も同様である。必ずしも全国の農家さんが「大儲け」している訳ではない。他の物価に比べ、「お米」や「野菜・果樹」の価格が今まで「優等生」であっただけで、生産者の報われない労務のおかげの「消費者価格」である。生産者が農業を続けて行く「施策」が必要であって、「備蓄米の放出」は「米不足」の消費者向けの一時的な解決にすぎない。まずは「農家」が農業を続けたいと思う魅力ある農業にするべく、根本的な解決に政府が舵を切らなければ、何れ消費者に大きなツケが跳ね返ってくる。

全国のスーパーはじめ販売店には「お米」や「野菜・果実」が途切れることなく陳列されていて、日常の風景となっているが、我々消費者も「食糧・食品」について、今回を機に考えないといけない。この「当たり前」がいつまで続くのか？

同様に「肥料」も工場に在庫があって「在庫が有るのが当たり前」のように思われているが、どの肥料メーカーも生産現場は「人手不足」を抱えてギリギリの人員で回している。それも「高齢」の従業員が多く、若い従業員が根付かない。「肥料」以外の生産資材全般にも言えることで、肥料をはじめとする生産資材の安定供給が危ぶまれている。未利用資源の活用を否定はしないが、「美味しい」農産物を潤沢に、かつ楽しい食事を日本国民に提供する為には「輸入肥料原料」は不可欠である。肥料原料であるリンや加里資源は世界的に遍在しており且つ中国は肥料原料の輸出をコントロールしている。また、トランプ大統領の関税政策が今後肥料価格にどのような影響を及ぼすのか？為替の動きも含め注視する必要がある。

「農産物の安定供給」そして「肥料の安定供給」にはそれなりの「対価」を払う必要があり、それを支える人々が高齢化している現実をどう変えていくか対策しなければ今の豊かな日本の食卓を維持することは厳しくなる。

「平成の米騒動」は冷夏の影響であった為、一過性だったかもしれない。しかし今回の「令和の米騒動」は高温という気象条件が続いた原因はあるものの、一過性では済まされない色々な課題を抱えていると認識すべきである。

今回の「備蓄米の放出」は、四季があり水が豊富で自然環境に恵まれた国土で「美味しい」農産物が作り続けられるという「当たり前」が「当たり前」でなくなる警鐘と捉え、「農業」を見つめなおす機会にしなければならない。



## ～令和6年度 21UK会 販売技術対策会議 開催～

去る令和7年2月21日（金）、当社にて21UK会 販売技術対策会議が行われ、特約店9店9名、エムシー・ファァーティコム(株)、当社合わせて22名、総勢31名による会議であった。本会議は2019年開催を最後に以降はコロナ禍により開催中止となり、今回5年ぶりの開催となった。

会議に先立ちエムシー・ファァーティコム(株)原田営業本部長、当社石橋営業本部長の挨拶で開幕。エムシー・ファァーティコム(株)田中東京支店長より令和6肥年度販売状況についてのご説明を頂いた。また春引取が本格化していく中で前広な引取のお願い、MCFCアグリチャンネル（YouTube）にて肥料の特長を解説している動画や農業に関するお役立ち情報を発信・内容の拡充を行っている動画や農業に関するお役立ち情報を発信・内容の拡充を行っており、まだご覧になった事がない方、各社におかれては是非他の社員皆様へ広めていただきたい。既存の商品チラシにMCFCアグリチャンネル関連動画のQRを入れる事も可能である。

続いて、技術関連報告としてエムシー・ファァーティコム(株)中村技術普及グループ長よりマイクロプラスチック問題、オキサミド（OX）・硫酸グアニル尿素（GU）・ホルムアルデヒド加工尿素肥料（UF）など緩効性肥料（肥効調節型肥料）の特長について説明を頂いた。肥料業界では2030年までにプラスチックを使用した被覆肥料に頼らない農業を目標に掲げ、各社取り組みを始めている。現状、現場では被覆肥料を使用している中で、その代替として生分解性被覆肥料の開発に向けて取り組みが始まっている事、化学緩効性窒素肥料の活用としてエムシー・ファァーティコムではオキサミド・硫酸グアニル尿素・ジシアンジアミド（Dd）、ホルムアルデヒド加工尿素肥料の4つを原料として使用する事ができるため、これらを組み合わせて使用する事が重要である。

その後、情報・意見交換としてご参加頂いた各特約店の皆様より各県の状況（肥料や農産物について）や取り組み内容について発表して頂いた。各県、栽培されている農産物は様々であるが共通点としては天候によるもので、近年の高温により生育や品質面に影響を受けている事、時期によっては日照不足や少雨による影響もあり肥大が悪く収量が中々取れないという事が挙げられる。

天候以外で収量に影響を及ぼした要因としては、水稻苗づくりを疎かにされ、土づくりを確りと行わなかった方については不作となる傾向があったようだ。一方でオキサミド肥料を使用し肥料試験を行われた先で、一般化成との比較試験において歩留りが良いとの生産者コメントや、収量調査結果を基に10アール当たりの収量・売上の算出値を比較された試験では収量増となった事から経済効果としては増収となった事例の発表もあった。

脱プラ問題への対策としてオキサミドを始め、硫酸グアニル尿素やホルムアルデヒド加工尿素肥料、ジシアンジアミドといった緩効性窒素肥料や硝酸化成抑制材を用いてプラスチックに頼らない肥料の検討・使用が今後各地で益々増えていく事と思われる。使用するにあたってはその商材の特長や機能面を確認しながら、状況に応じて他の緩効性窒素肥料との組み合わせも必要である。オキサミドを使用するに際し課題はあるものの期待値は大きくなってきているという事を確認する事ができた。

最後に当社田口肥料部長より閉会挨拶を行い、同会を閉会した。ご多用のところご参集いただきました特約店の皆様に紙面をお借りして心より感謝申し上げます。（東京支店）



寒暖差が激しいですが、昼間のポカポカ陽気は春めいてきましたね。お昼寝したくなります。

編集事務局：田口、山内

電話：03-5275-5511/E-mail：macjournal@mcagri.co.jp URL http://www.mcagri.jp